

株ミクニ

「人の交流」を創出する スマートビルが6月完成

ワールドホールディングスグループの株ミクニ（北九州市小倉北区紺屋町、西田宏二社長）が魚町3丁目に建設しているスマートオフィスビル「BIZIA（ビジア）KOKURA」が今年6月に完成する。

北九州市が取り組む、SDGs



「BIZIA（ビジア）KOKURA」外観イメージ

未来都市実現に向けた「コクラ・クロサキリビテーション」の第一弾プロジェクトで、IT企業誘致促進を目的の一つとしており、日本IBMや東証プライム上場の大手IT各社が入居を予定。現在もさらにリーシングを進めている。そうした企業が求める、環境、

BCP、セキュリティ対策を充実させており、同時に「まちのにぎわいを生む、集いの場、づくり」もコンセプトに掲げる。角地という立地を生かして、1階エントランス前に設ける公開空地は、コクラリビテーションで謳う「ウォーカーブルな街」の交差点、「クロッシングフィールド」と位置づけ、イベント等で人が集い、交流する空間として利用できるよう、現在、関係者と協議が続いている。

また2階部分には、オープンスペースと貸会議室からなるコミュニティラウンジを設置。ここでは入居企業の来客対応や打ち合わせ、さらには、入居企業と地元の理系学生とのセミナーや入居企業同士でのコミュニティ形成となる催しなども想定しているという。1階の公開空地では市民中心、2階のコミュニティラウンジでは入居企業が中心となった、2つの交流拠点を生み出すというプランだ。

そして1階エレベーターホール奥の壁面には、小倉織をテーマにしたモニュメントを設える。

「BIZIAを小倉のランドマー



2階のコミュニティラウンジ

クに」との願いも込め地域色を打ち出すもので、小倉織の株小倉織の協力を得て、小倉織の特徴である縞模様の生地をベースにしたデザインで高さ4mほどのモニュメントの製作を進めている。

ミクニの山田秀典会長は「小倉織は海外でも評価されている。そうした世界に羽ばたく企業に入居していただきたいという思いもあるし、テナント様に小倉の文化を紹介する意味合いもある」と語る。